Vol.07

鷹・鷹場・環境研究会 The Society for Hawks, Hawking Grounds, and Environment Studies

目次

展覧会紹介「Eaglemania: Collecting Japanese Art in Gilded Age America」 水野 裕史 ハーバード大学燕京図書館調査:鷹書の伝来について 福田 編集後記

展覧会紹介「Eaglemania: Collecting Japanese Art in Gilded Age America」 水野 裕史

2019年3月15日

2019年3月15日(木)にボストンのマクマレ ン美術館で開催された展覧会「Eaglemania: Collecting Japanese Art in Gilded Age America に行って参りました。現地では、ゲストキュレ ーターのビクトリア・ウェストン先生(マサチ ューセッツ大学ボストン校)とダイアナ・ラー セン先生(マクマレン美術館)に解説いただき、 また20世紀初頭に建築された美しいボストンカ レッジの構内もご案内いただきました。この場 を借りて深くお礼申し上げます。

今回の展覧会は、ボストンカレッジのシンボ ルである "golden eagle"の修復完成を記念して 企画されたものです。この "golden eagle"とは、 アメリカの外交官であったラーツ・アンダーソ ン (1866-1937) と妻のイザベル (1876-1948) によってボストンカレッジに寄付された日本彫

刻です。もともとは、彼らの邸宅の庭園に飾ら れていたもので、1900年前後の制作と考えられ ています。



golden eagle



マクマレン美術館の外観



03 ボストンカレッジの構内

展覧会では、"golden eagle"の作者が明らかにされました。これまで作者は不詳でしたが、金工家の鈴木長吉(1848-1919)による制作の可能性が指摘されました。鈴木長吉は、アメリカでもよく知られた日本の彫刻家です。ジャポニズム運動の立役者であった林忠正(1853-1906)の依頼により、シカゴ・コロンブス博覧会(1893)に「十二の鷹」(東京国立近代美術館蔵)を出品したことで広く知られています。

この「十二の鷹」を含む鈴木の作品と"golden eagle"には幾つかの共通点が見受けられ、これが根拠の一つとなって、作者が同定されたのです。詳細は、同展覧会図録と『鷹・鷹場・環境研究』3号にご寄稿いただいたビクトリア・ウェストン先生の論考をご覧ください。

展示総数 92 点の作品が、7 コーナーほどに分けて展示されています。「鷲」と「鷹」のコーナーから始まり、曽我二直庵「鷙鳥図」(ボストン美術館蔵)や根付、蒔絵といった幅広いジャンルの展示で、見応えがありました。随所に工夫された演出が見られ、例えば美術品の受容者の階層を分け、侍文化と町人文化に区分けしたコーナーがありました。また、フィラデルフィア万国博覧会(1876 年)の日本館の展示の一部が再現されていたことも印象的でした。9 本の論文が掲載された展覧会の図録も必見です。



04 展示室(正面が golden eagle)



05 フィラデルフィア万国博覧会の再現

アメリカでは、国章に鷲が描かれていることもあって、猛禽類への関心が高く、猛禽類をテーマとした美術展覧会が何回か開催されています。これだけの充実した展覧会が日本で開かれていないことが残念に思います。

なお、本調査は、2018 年度公益財団法人鹿島 美術財団:美術に関する調査研究助成「豊臣秀 吉「大鷹野」と鷹狩図屏風」(研究代表者:水野 裕史)によって実施したものです。ご助成いた だきました鹿島美術財団の皆様にも篤くお礼申 し上げます。



06 記念写真(左からダイアナ・ラーセン先生、ビクト リア・ウェストン先生、福田千鶴代表、報告者)

ハーバード大学燕京図書館調査

鷹書の伝来について

福田 千鶴

2019 年3月 16 日(土)に、米国ハーバード大学燕京図書館において、鷹書の調査をおこなった。第一の目的は、白河文庫旧蔵書である『鷹書』の実見にあった。これに関しては、白河文庫印をもつ鷹関連書籍は持明院流鷹書を書写したものであることを確認した。持明院流鷹書を書写したものであることを確認した。持明院流に関連するものとしては、『秘伝鷹狩之術』と題された小横帳1冊があった。この他にも、注目された小横帳1冊があった。この他にも、注目すべき鷹書として、大坂雁金屋版『古今鷹之書』は、生類憐み政策により鷹狩が制約される文化環境のなかでの鷹書の出版として、その読者を含めて興味深いものがある。

この他、まったく想定外のものに河鍋洞郁著 『絵本鷹かゝみ』の存在が確認できたので、以 下に報告したい。

① 金花堂版『鷹かゝみ』上・中・下 2冊 (3冊本)

請求番号 TJ 6289.6 (1-3)

黄表紙 本来は3冊本であるが、現在は、上1冊、下・中1冊の組み合わせで洋装本2冊となっている。

② 松山堂版『鷹かゝ美』一〜五 5冊 請求番号 J6289.6 3860,2 (1-5) 黄表紙

一は、上一~十。二は、下一~十一+無番号1枚、三はコー~コ十、四は中一~中十、五はコー~コ十の頁数が丁ごとに付されており、一は金花堂版上、二は同下、四は同中に相当することが確定する。

③ 金花堂版『鷹かゝみ』下 1冊 請求番号 TJ6289.6 3860.1 黄表紙

内容は金花堂版3冊本の下に相当するが、表紙型押しが①とは異なるため、①系統の版本ながら、版を異にすると考えられる。なお、出版年等のわかる刊記はないが、表紙見返しの内扉表題から金花堂版であることが確定でき、燕京図書館での受け入れ日が1878年12月10日とあるので、当該年までの出版となる。

以上、藤實久美子「河鍋洞郁(暁斎)『絵本鷹からみ』の史料学的考察—文久2年(1862) 3月の校合摺の紹介を兼ねて—」(『鷹・鷹 場・環境研究』3号、2019 年)において『鷹かゝみ』版本の書誌情報を蓄積する必要が指摘されていたが、早くも三系統の版本を確認することができた。藤實論文により既存の『鷹かゝみ』と比較しても新系統の版本であることは明らかだが、書誌情報も含めて本格的調査が必要と判断した。いずれも下記の鷹書を含めて、今後の本格的調査に委ねたい。

- 01 古今鷹之書 TJ6981/0350
- 02 白鷹記 TJ6981/1235
- 03 青鷹似鳩拙抄 TJ6981/5024
- 04 鷹口伝 TJ6981/0620
- 05 鷹秘抄 TJ6981/0750 *外題に鷹聞書とあり。内題に鷹秘抄とあり。
- 06 〔鷹聞書力〕 TJ6981/0250 *外題に鷹秘 抄とあり。内題なし。
- 07 嵯峨野物語 附白鷹記 TJ6981/1234
- 08 鷹絵図 TJ6981/0260
- 09 鷹百首 TJ6981/4738

なお、司書のマクヴェイ 山田久仁子氏には、 大変ご親切にご対応いただき、書誌情報につい てもさまざまの有益な情報のご提供をいただい た。この場を借りて御礼を申し上げます。

受贈図書

- •谷徹也氏:同『石田三成』(戎光祥出版)、2018年
- ・三弥井書店: 二本松泰子『鷹書と鷹術流派の系譜』(三弥井書店)、2019年
- •森安彦氏:『近世史藁』第9号、2018年
- •山名隆弘氏:大洲史談会『温故』復刊第 40 号、2018 年
- ・山名隆弘氏:同『中世鷹飼の春秋―鷹狩の種々相12話・「蒙求臂鷹往来」12か月―』(雄峰舎)、2018年
- ・中澤克昭氏:同『肉食の社会史』(山川出版社)、2018年
- ・渡部浩二氏: 行田市郷土博物館『鷹狩と忍城』、2018年
- ・中澤克昭氏:二本松康宏編『諏訪信仰の歴史と伝承』(三弥井書店)、2019年
- Victoria WESTON 氏: Victoria WESTON (McMullen Museum of Art, Boston College) 編『EAGLEMANIA; Collecting Japanese Art in Gilded Age America』、2019 年
- ・佐藤孝之氏:同『近世駆込寺と紛争解決』(吉川弘文館)、2019年
- ・佐藤孝之氏:小宮木代良編『近世前期の公儀軍役負担と大名家―佐賀藩多久家文書を読みなおす―』(岩田書院)、2019年

編集後記

新年度を迎え、NEWS LETTER 7号を発行できました。今回は3月に実施した米国出張についての報告となりました。 NEWS LETTERでは伝えきれないほどの、大きな収穫のある調査でした。

https://www.bc.edu/sites/artmuseum/exhibitions/eaglemania/ マクマレン美術館では、河鍋暁斎の肉筆鷹絵(軸装3点)が展示されており、大迫力でした。水野裕史さんの報告にもあるように、これらが日本で見ることができないというのは、本当に残念なことです。ぜひ上記アドレスにて、概要をご覧ください。

鷹・鷹場・環境 NEWS VOL. 7 2019 年4月 22 日発行 鷹・鷹場・環境研究会編集・刊行 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学基幹教育院福田研究室 TEL:092-802-6019